

# 農園便り 12

月号 (94月号)

文責 筒口 典康

(2020/12/01)

区民農園を利用なさっている方の中には、野菜作りの名人がおられます。



6/29 14個の実が!



7/03 片付ける



8/14 ズッキーニ ネギ セロリ

残念なことに8月に94歳で亡くなられた「田中」さんもその一人であります。『私は練馬区の関泉の田中ではありませんヨ。 関西、生まれ。「呉」で終戦を迎えた。 広島の被曝雲を目前で見たヨ。』…予科練の学徒であったか?

田中さんの畑は、現在放置されたままになっているので、色々と勉強させていただいております。

全く驚くのですが、スイカ4本株で、7/03までで、14個の完熟。その後「ズッキーニ」。土壌が出来ているのでしょうか。見る見るうちに生長。8月には収穫。オドロキ、であります。

先日(11/15)、スイカのマルチを遠慮気味にめくりまして土の状態を調べると、小指・親指大の土の団粒。有機物は見当たらない。水を与えられていないのでサラサラ。その状態が20cmぐらいの厚み、いや、25cmはあるか?

完熟スイカ14個の謎の一部が解ける…。完璧なマルチの上に稲藁で覆う。土粒の粒は小動物。菌や細菌によってできた粘質で固まった物であろう。

『スイカは小肥で良い』…、『有機栽培が良い』ということであろう。

田中さんは説明をすることは好まない。2mmほどの粒状の土粒。醗酵鶏糞粒か? 化成12・12・12の粒か? 『野菜はネ、本を読んで、話を聞いて出来るものではない!! 要は、愛情=慈しみ=よく観察することだよ!』と。

アブラムシ対策には、銀テープ。高地チベットの仏教徒村のハタメク旗のように、銀と赤のテープがヒラヒラ。カラス除けも考えていると思います。それと光合成細菌の液も用意していた。蔓の誘引も整然としていた。授粉のことなどを色々お聞きしたかったのですが、亡くなわれてしまったので、もうそれは適わない。

中央の作業通路を挟んで北側に、大・中・小のトマト。これも見事鈴生り6段成り。驚異の生育。甘くてコクがある。『一つ食べて良いよ』いただく。「甘い」! 『トマトには、トマトン(着果剤)を使っているヨ』。

トマトの後は「セロリ」、8月の末に遮光ネットをお張りになっていた。 区

の都市農業課の方たちの片付けの前に、土の状態をもう一度調べたい。



11/22 坂上さんの畑

11/25 築根さんの畑

11/22 藤井氏の畑

上石神井南農園の開園の当初よりご一緒させていただいております「坂上」さん。この方は、「適期適植」の名人。栽培する野菜の観察が鋭い。

根周りの追肥のタイミング、施肥量が的確である。横着を極める「クク・ララ農法」の私とは対極にある存在でありましょう。常に先行して種を蒔く。育苗する。『筒口さんこれは作っていないでしょ、お植えになりますか?』と。有難く頂戴する。感謝！

明日(11/20)坂上さんの畑の品目を見てきます。11月現在、15品種に及ぶ。早大の井草のラグビー練習場方向にあるお宅の蔓バラも見事。醗酵牛糞堆肥と化成肥料、草木灰をよく使われている。

坂上さんが良く意見交換をしている「藤井」さんの畑も際立って良い野菜の作柄である。

キャベツの外葉が凹レンズのように広がる。結球も始まっている。はち切れんばかりだ。ブロッコリー、キャベツ、小松菜、ほうれん草・・・とにかく見事な出来栄である。醗酵牛糞堆肥と化成肥料、醗酵鶏糞をよく使われている。見事。

私の隣の「築根」さんの畑も素晴らしい。とにかく整然としている。

『白菜は、大玉が美味しいよね』。『小さいもんは、今一つ旨味に欠けるから』。『スイカの田中さんがすごいというが、誰でもあのくらいのことはできますヨ』作られている品種も多い。収穫後の片付け。新しい畝の施肥、耕耘、畝作り。何をどのように工夫なさっているのかは解らないのですが、野菜たちが元気。耕作地がほか方より広いのではないかと思うぐらい整然としているのである。品種ごとに畝を作られている。

以前(6月)、いただいた辛味ダイコンが美味しかった。ナスもトマトもピーマン、キュウリも良い「作」でした。ミニトマトは今(11/23)も赤い実を付けている。

畑には早めに来て手入れをなさって帰えられので、のんびりとお会いすることが出来ない。見て学ぶしかない。

私の畑について 南側からダイコン。正月におろしていただく。 クワイと

サトイモ。 ミニハクサイとレタス。 中央作業路の北側に、ネギ、ニラ。 その隣畝に2列で、ブロッコリー、キャベツ、小松菜、ミズナの混作。 オカワカメの垣根づくり、 サトイモとショウガの混作。 アシタバ列。 58区全体を食用菊と派手やかな小菊と盆栽菊などで囲む。



11/27 作業路に置くコンテナに空心菜 サトウキビ キャベツ ブロッコリー オカワカメ

オカワカメは、今はグリーン。 強勢な植物のせいであろう、アピオスも山芋もすっかり負けてしまった。 むかごも着きません、ヒョロヒョロ。 それにしてもオカワカメ=雲南百薬草は強い。 下草も生えない。

南の大根の隣は、収穫残渣 (トウモロコシ、ナス、トマト、サトイモ、クワイ、エノコログサ、ヒメシバ、レンゲラス、サトウキビ、……)を置いて「糠」。その上に大型コンテナの「さな」を置く。仮通路となる。

オカワカメの垣根下も同様に収穫残渣を置く。「糠」。ラワン板・ラワン厚板を置く。 仮通路となる。 オクだけ。 立ち位置での、オクオク・ララクの作業であります。



11/20 58区 南端の畝 ダイコン 11/20 ハクサイとレタス 写真右中央の作業路

ナメクジ 妻が「今日鍋物にしようかな」と言う。 そこで、白菜を収穫しまして、帰宅。 青梅街道沿いにお住まいの徳農家の尾崎さんの庭先販売で、ニンジン、ネギ、小松菜などを購入。

「尾崎さん白菜にナメクジが出てしまいました。どのように対処すればいいのでしょうか？」とお聞きしたところ。 『有機栽培にこだわる畑には発性しやすいよネ』 『シュンギクとかレタスを使うと良いかもしれないヨ』 やってみましょう。 混作、春菊列で囲ってみるとか …。

不耕起栽培 区民農園を利用してからは、不耕起の畑作りをやっています。

今年の1・2月号のとうりです。中央の作業路の左・右(=南・北)の広畝を作りまして、一切深く耕さないのであります。不耕起栽培です。

菜園は2年間で使用期間が終了。初年度は地表に有機物と有機肥料を撒きまして(=置きました)、三角鋤でかき回すだけ。有機肥料の「菌」や「細菌」を使って土ごと醗酵を待つ。「菌」で、耕します。菌耕作です。

春・夏・秋と経過して、それぞれ収穫しまして、残渣は地際で切る。根はそのまま。取った枝葉は大まかに切って、乾かしてそのままマルチとして使います。一度干すことが大切です。栽培中の野菜の横に置きます。

土の中に残した「根」は、微生物達の働きによって無機化。そのまま「根穴」が出来る。「ミミズ」の通り道もできる。地表近くに糞粒も貯まる。地表から20cm~50cmがフカフカになっていきます。根耕作と言う分けでしょう。

とにかく畝作りがラクラクなのであります。地表に置くだけ、オクオクなのであります。作業姿勢も多くは立ち位置でありますから、楽・楽なのであります。

雨の多い年は、中央の作業路を深くします。3か所に排水穴をあけたりします。

片方の広い畝は、灌水を多くしてやります。そうしますと、野菜の水分要求に対応できます。ナス・里芋などは水やりを多くします。水分要求の少ないトマト・エダマメ等は、乾き気味の畝に植え付けます。収穫後、地中の根はそのままにしておく。根が深く入るイネ科・乾燥地の野菜オクラ・モロヘイヤなどの「根」を積極的に使います。根耕させる。

作業通路の片側半分を養分の濃い畝、そして薄い畝を作ります。野菜たちの養分要求に合わせて使い分けていきます。そのような使い分けをしていくと、品種ごとの生育状態が解るようになります。水分関係と養分関係が分かります。狙いは、安全で安心・美味しい・栄養価の高い、野菜作りであります。それには、不耕起栽培が近道であります。

頑張る「芝勝」 11月13日 元気元気のお嬢、お二人。お気に入りのお店。良い品物が、かなり安めで手に入ります。仕入れ上手 店の配色が素晴らしい。



11/13

T.